

週刊 武四郎

第26号

2018年(平成30年)10月3日(水)
発行・松阪市

●毎月第一週は、
松浦武四郎の人となりについて
ご紹介いたします

監修・松浦武四郎記念館

伊勢の人、武四郎

江戸時代、京都は天皇さまが
いるので「京都」、江戸は武士が
多いので「武都」、そして伊勢は
伊勢神宮があるので神さまの都
「神都」と呼ばれていました。

松浦武四郎は、その神都伊勢
の国の、しかも伊勢街道沿いの
家で生まれました。このことは
武四郎さんの人格形成に多大な
影響を及ぼしたと思われまが、
それ以外にも「伊勢出身」であ
ることは、彼に様々な恩恵をも
たらしたようです。

放浪時代、武四郎さんは旅先
のあちこちから実家に手紙を出
しています。手紙を運んでくれ
たのは旅人でした。全国どこへ
行っても「これからお伊勢参
りに行く」という人はいるもの
で、武四郎さんはそういう人に
出会うと手紙を書いて託しまし
た。伊勢街道沿いにある自分の

実家に届け

て欲しい、

と。その代

わり手紙に

は「この手

紙を届けた

人を一晩泊

めてあげて

下さい」と

も書きまし

た。旅人は

手紙を届ける代わりに一晩宿代

が浮くというわけです。

あるいは、見知らぬ地で「ど

こから来た」と問われた時に「伊

勢から来た」と言うと、「おね

あの伊勢神宮のある……！」と

伊勢から程遠い土地ほど、「伊勢

から来た」というだけで丁重な

扱いを受けることができました。

旅人は情報をもたらす重要な存

在でもあったのです。

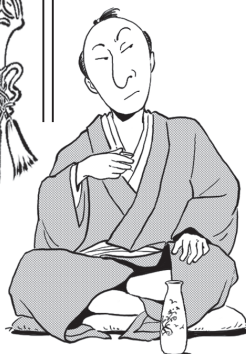


……「くしだがかわ 柳田川周辺でしかとれない
貴重な芋で、親芋を頭に頂く
ように子芋が大きく育つことか
ら古来、慶事に用いられた縁起
のいい芋なのだといいます。

この慶応三年の正月、武四郎
さんは五十歳を迎えました。故
郷から名物の芋を取り寄せて、
すりおろしたとろろ汁をふるま
い、人生五十年といわれていた
時代のその節目の年を、友人た
ちと祝ったのでしょう。

松浦武四郎 (1818～1888)

三重県松阪市出身。幕末から明治にかけ
ての探検家、著述家、蒐集家。蝦夷地（今
の北海道）を6度にわたり探査し、アイ
ヌの人々と交流を深め、蝦夷地の詳細
な記録や地図を作成した。維新後、蝦夷
地に代わる新たな名称として〈北海道〉
のもととなる〈北加伊道〉を含む6案
を政府に提案したことから〈北海道の名
付け親〉と称される。



文・河治和香 装画・りんたろう 編集・細山田正人 デザイン・DOMDOM

●松浦武四郎を主人公とした小説『がいなもん 松浦武四郎一代』（河治和香著）が、小学館より好評発売中！

